

牛は賢いです。

あれは1トン爆弾ではないと思います。

艦載機が500キロ爆弾を落としたのではないだろうか。

私も艦載機が7、8機、北の空を東の方へ行くのを見たことがあります。

その中の1機だけがこっちへ回ってきて、操縦する眼鏡の兵士の顔が見えるほどの高さを飛び過ぎて行き、天辻の辺りに機銃掃射するのを見たことがあります。

あの種の艦載機が積んでいた500キロ爆弾を二つ落したのだらう、と想像します。

私は、家の屋根に上がって大阪の空襲を見たこともあります。

屋根の上からは、大阪城も見えました。

灯火管制など何の役にも立たなかった。

空中で炸裂した照明弾が五つくらい強烈な光を発しながらぶらぶらと落ちてくる大阪方面は、夜でも昼のような明るさ。

その後から爆弾を落とし、焼夷弾を落とした。

天満橋に爆弾が落ちたときは、電車に乗って見に行ったこともあります。

電車は当時の片町までしか行かなかったもので、そこから引き返したことを覚えています。

大阪の空襲がすんで、空襲警報が鳴ってB29の編隊が向こうの方に見えたら防空壕に入っていないさい。

上空に来たら、防空壕を出てもいい、と言われたものです。

高射砲の弾は、B29が先へ行ってしまった後、それも下の方までしか届かない。

日本の飛行機は少しも飛んでいない。

B29はゆうゆうたるもので、あんなのを見せつけられると、敗戦もやむを得なかった、と今になって思います。

祖父の思い出はつきません。

祖父はとても厳しい人で、私はよく叱られて、おうこを持って追いかけられたこともあります。

大きな祖父が立って伸ばした両腕に、私たち子供は鉄棒のようにぶら下がったりして可愛がってもらいました。

歯が強くて煎った空豆をバリバリ食べたりする姿を思い出します。

祖母は、ずっと9月13日の夜には月見をしていましたが、昭和44年にアメリカの宇宙船アポロが月面に着陸すると、祖父の死を思い出して、アメリカの国旗が立つ